



撮影：ハービー・山口（1973年卒） 場所：5号館屋上

東京経済大学報

2024年度
第57巻 第2号

理事長・学長

新年のあいさつ

謹んで新春のご祝詞を申し上げます

皆様には平素より本学へのご支援・ご協力を賜り、有難く厚く御礼申し上げます。

2025年(令和7年)は本学創立者である大倉喜八郎が1900年(明治33年)10月、赤坂葵町に大倉商業学校創立以来125周年を迎えることになります。

格別の周年行事を執り行う予定はありませんが、11月開催のホームカミングデーにはOB・OG、在校生、教職員揃って賑やかに祝賀のパーティーを開催したいと考えます。

2025年は乙巳、「努力を重ね、物事を安定させていく」という縁起の良さを表しているようです。ここは巳年にあやかり困難があっても糾余曲折、変化・成長する道を選びたいと思います。

私は一昨年、理事長重任以来、次の4つの方針を掲げ取り組みを進めて参りました。

- 1.財政収支の改善と安定化
- 2.国分寺キャンパス第2期整備事業の促進
- 3.法人経営を担う次世代人材の掘り起こし
- 4.魅力ある大学及び学部・学科づくり

120周年記念事業の国分寺キャンパス整備事業は新型コロナウイルス感染症やウクライナ戦争の長期化等、大変困難な環境下ではありますが、発注先の協力を得ながら基本設計を経て2025年3月着工の段階に至っております。加えて別途、本学正門前に女子を中心とする学生寮建設を並行して進めて参ります。

教学面において受験生及び保護者の皆様方に選ばれる、そして高校の先生方に推薦してもらえる大学として、魅力ある学部・学科づくりは喫緊の課題であります。18歳人口が辛うじて109万台の横ばいで推移する2027年度までの3年間が極めて重要になります。

また、8年間にわたる岡本学長の指揮下、教学ビジョンとして掲げたゼミの強化、国際交流・多文化共生、データサイエンス教育、大学院改革等について具体的施策の展開を大いに期待したいと考えます。

恒例の株式相場での格言は『辰巳天井、午尻下がり』、『戌亥の借金辰巳で返す』となります。昨年は7月11日に日経平均株価、東証初の4万2千円台を記録しその後は乱高下、難しい判断を迫られます。念のため、本学の資産運用は安全第一、株式への直接投資を行っていません。

今年こそ災害、事故の少ない良き年でありますように、ひたすら皆様方の平穏無事な一年を心よりお祈り申し上げます。



学校法人東京経済大学
理事長

菅原 寛貴

新たな一年、出発に際して

皆さま、新年明けましておめでとうございます。2025年の新年にあたり、学長としてのご挨拶を申し上げます。

大学は、学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を追究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与する役割を担っています。本学も1949年に東京経済大学としてスタートを切って以来、一貫して自由な学問研究に支えられた質の高い教育を行う「大学らしい大学」となることを目標に「アカデミズムに裏打ちされた実学教育」を実践してきました。

しかしながら、急速な少子化の中で本学が「大学らしい大学」として今後存続・発展していくために、「入学志願者の確保」と「就職に強い大学」という社会的評価の獲得が不可欠です。特に「入学志願者の確保」は今後10年間において本学の最大の課題となると考えています。このことを念頭に置きながら、私は昨年「18歳人口の減少を見据えた将来構想検討委員会」を設け、高校生とその保護者にとって「魅力的な大学」とはいったいどのようなものか、そのような大学になるために本学は何を優先的に取り組むべきであるか、を検討

していただいているところです。また、この将来構想検討委員会の活動と連動して、広報委員会には「大学のリ・プランディング」や「女子に選ばれるための東経大プロジェクト」など学生の安定的獲得に向け、新鮮で大胆な広報施策を練っていただいているところです。

皆さまご存知のように、本学は今年で創立125周年を迎えます。戦前の経済・商業系の専門学校から戦後大学に昇格した同種の大学に比べても群を抜いて長い歴史を誇る大学です。私は本学の更なる25年後、創立150周年を展望しながら今年をその土台固めの年にしたいと考えています。皆さま方の一層のご理解とご支援を、よろしくお願ひいたします。



東京経済大学
学長

岡本 英男

「国分寺キャンパス 進捗状況」

第
2
期

整備事業」の

国分寺キャンパス第2期整備事業は、「学生のためのキャンパス整備」をコンセプトとする学生目線のキャンパス整備計画です。検討を開始した2018年以降、新型コロナウイルス感染症の影響による検討の大幅な遅れや建設コストの上昇による計画の見直しを経ながら、最終的に「新築1棟」と「学生厚生会館の大規模改修」というプランになっています。

Renewal



新築建物の外観と特徴

長年多くの人に親しまれてきた2本の大銀杏や学生の憩いの場となっている芝生広場を残し、緑豊かなキャンパスの雰囲気や100周年記念館のファサードとの調和を図ります。

TOKYO KEIZAI UNIVERSITY 120th Anniversary Project

|工|事|計|画|

工事の進め方として、まず現在の芝生広場に新棟の東側部分を建て(I期工事)、I期工事部分の供用開始後に現葵陵会館を解体し、その跡地に東側部分に接続させるかたちで新棟の西側部分を建設します(II期工事)。

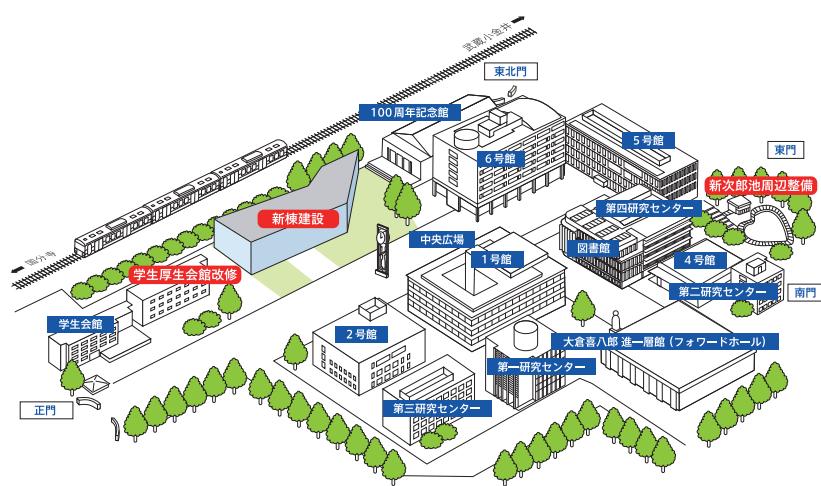
2025.3月 着工予定

2026.9月 I期工事部分(地上3階、地下1階)供用開始予定
食堂、ラウンジ、音楽練習室、ダンス室、
ミーティングルーム、ラーニングコモンズ等
現葵陵会館解体予定

2028.7月 II期工事部分(地上4階)供用開始予定
部室、小ホール、多目的室、ラウンジ、
書籍・購買店舗、半屋外イベントスペース等

2029.2月 学生厚生会館(1・2階改修)供用開始予定
ラーニングコモンズ等

キャンパス配置図



*新次郎池周辺整備は建物工事に先行して実施し、2020年10月に竣工しています。

現葵陵会館（食堂、小ホール、集会室等）と現学生会館（部室、音楽練習室等）を、のびやかな大屋根でつながった1棟の建物として計画します。

東京経済大学

創立120周年

Renewal

記念事業



建物の中央部分にはこれまで学内になかった半屋外イベントスペースを設けます。雨天でも活動できるオープンなスペースを設置することで、新たなイベントの実施等、学生たちの自由な発想を応援します。

工事範囲にある樹木について

今回の工事範囲には多くの樹木があります。工事のためにそのままほとんどを伐採しなければなりませんが、そこで発生した木材はオブジェなど何らかの形で新しい建物の中で活用していくことを検討しています。



▲中央線側から見た外観

古代都市の謎に迫る 「文明とは、人類とは」

多様な業界で活躍する東京経済大学の卒業生が登場するスペシャル企画。今号は、メキシコ・アメリカ・日本の3国を行き来し活躍する考古学者・人類学者の杉山三郎さんが登場。岡本英男学長と語り合いました。



学長

岡本 英男



考古学者・人類学者

杉山 三郎 さん

東京経済大学 経済学部卒業

**新大陸で独自に興った
「メソアメリカ文明」**

岡本 新大陸の古代文明は、モノカルチャーではないというのも興味深いです。旧大陸では、早くから小麦や米など限られた品種の栽培を始め、牛や豚、羊などを家畜化。それが食生活の安定と人口増加につながりました。

一方、新大陸では、変化に富む地形や気候に対し、人間が手段を変えて適応。トウモロコシ、カボチャ、インゲン豆、アボカド、トウガラシ、トマトなど、多くの植物種のゆるやかな耕作法が開発されていきました。また、家畜化をほぼせず、野生か半野生のシカやウサギ、ノブタ、ネズミ、湖の魚や野鳥などを必要な時に獲るのみ。「野生種」と「栽培・家畜種」の中間的な形態で、多彩な動植物を食料とする方法を地域ごとに生み出していったのです。新

大陸で生きる人にとって、「この世界は、動物を含めたみんなのもの」であり、「自然と人が共存する」という自然観を当たり前に持ち合わせていたのでしょう。

1万3千年前、ユーラシアからベーリング地峡——当時は地続きでした——を渡つてアラスカ・北米へと移入した狩猟採集民の小集団がいました。彼らは新しい環境に適応しながら、数千年かけてメキシコ・中米・南米へと拡散し、統率された階層社会を独自に作り上げていきました。特に高度な文明を築いたのが、巨大計画都市テオティワカンを含む「メソ(中間)アメリカ文明」、マチュピチュなどで知られる「アンデス文明」です。これらの文明は1521年にスペインに征服されました。新大陸古代文明を解き明かすことで文明史の検証ができる、つま

岡本 私たちが思い浮かべる、いわゆる近代化に向かう文明進化とは、全く違う姿が浮かび上がりますね。

杉山 新大陸では、農耕・牧畜のほかにも、土器、金属器、文学、宗教、天文学といった文明の要素が、旧大陸と接觸することなく独自に作り上げられました。新大陸古代文明を解き明かすことで文明史の検証ができる、つま

り「文明とは何か」「人間とは何か」を探るヒントをもたらしてくれるのです。この問い合わせを掘り下げていくことは、考古学を探究する者としての使命だと思っています。

発掘はいわば『現場検証』

「王権」の始まりを追う



▲2015年、「太陽のピラミッド」前で測量中に(左端が杉山氏)

この仕事は、刑事事件の現場検証とどこか似ています。現場に残された血痕をDNA分析するなど、わずかな物

なるほど、面白いですね。ただ、テオティワカンは都市発生のメカニズムも、民族や言語も、未だ謎に包まれているとか。先生がいま特に注力している研究は何ですか。

いま頭の中を占めている大きなテーマが「王権の始まり」です。そもそも人間は、個体では1頭の動物にすら負けてしまうか弱い存在です。(ここまで生き延びてきた理由の一つが「利他行動」つまり頭を使って、集団のために共同作業・共同生活をしてきたから。狩りなどはその一例ですね。そうやって人が集まり、次第に血縁関係を超えた大きな社会集団ができ上がっています。やがて、食料の配分や天文・自然・動植物などの知識をコントロールする力が必要になります、「権力者」という存在が階層社会と共に生まれたと考えられます。現代の社会も、「大統領」「首相」と呼び名こそ違えど、人間の行動としては同じ延長線上にあるといえます。

杉山先生は、メソアメリカ文明の古代都市・テオティワカンの3基のピラミッド「太陽のピラミッド」「月のピラミッド」「羽毛の蛇ピラミッド」をはじめ、メシコの古代都市遺構の発掘に長年取り組まれてきましたね。

この仕事は、刑事事件の現場検証とどこか似ています。現場に残された

的証拠から「何が起きたのか」を突き止め、実際にじり寄る。違いはその出来事が「2日前」のことなのか、「2千年前」のことなのか、ということですね。

なるほど、面白いですね。ただ、テオティワカンは都市発生のメカニズムも、民族や言語も、未だ謎に包まれているとか。先生がいま特に注力している研究は何ですか。

いま頭の中を占めている大きなテーマが「王権の始まり」です。そもそも人間は、個体では1頭の動物にすら負けてしまうか弱い存在です。(ここまで生き延びてきた理由の一つが「利他行動」つまり頭を使って、集団のために共同作業・共同生活をしてきたから。狩りなどはその一例ですね。そうやって人が集まり、次第に血縁関係を超えた大きな社会集団ができ上がっています。やがて、食料の配分や天文・自然・動植物などの知識をコントロールする力が必要になります、「権力者」という存在が階層社会と共に生まれたと考えられます。現代の社会も、「大統領」「首相」と呼び名こそ違えど、人間の行動としては同じ延長



Profile

すぎやまさぶろう

1952年、静岡県生まれ。東京経済大学経済学部卒業。アリゾナ州立大学研究教授、岡山大学文明動態学研究所学外研究員。愛知県立大学名誉教授。『ロマンに生きていいじゃないか—メキシコ古代文明に魅せられて』『レジリエンス人類史』(共著)など著書多数。



天文学は、古代人にとってやはり重要だったのですね。

太陽や月・星の規則的で複雑な動きに、古代人は特別な意味を見出しありました。完全日食で暗闇が訪れるところは、ほぼ間違いません。また、この世の終わりかのように恐れたでしょう。また、雨季や乾季のタイミングは、農業や暮らしに直接結びつく重要な情報でもあります。天文学をはじめ、気象学、地形学、動植物学、地政学など

の説得力ある解釈を民衆に伝える、いわば「知識の操作」ができる人が強力な権力者になつていつたと考えられます。その証拠を集め、新大陸における「王権

の始まり」を検証したいと思っています。

ただ、肝心の王の骨はまだ発見されていないですよね。「テオティワカンに王がいた」のは、確かにのでしょうか。今日はこれをぜひ伺いたくて。

ピラミッド内部に王墓があつたことは99.9%間違いない、と私は確信を持っています。まず、これまでにピラミッドで発見された多くの生贊儀礼の痕跡、奉納された奢侈品が、階級社会をコントロールする強力な権力の存在を物語っています。また、伝統的な王墓の形のパターンに照らせば、「太陽のピラミッド」と「羽毛の蛇ピラミッド」の下に見つかった古代トンネルの奥に王墓があつたことはほぼ間違いません。また、
「月」と「太陽」のピラミッドの中間に位置する宮殿のような施設「石柱の広場」では近年、マヤ王朝とテオティワカンの統率者集団の交流を示す遺物が大量に出土しています。ピラミッドを創った王権の実体を求め、私の最後のプロジェクトとして始めた調査です。岡本学長もぜひ一度、テオティワカンにいらしてください!

こんなことがあるのか 心震える大発見の瞬間

先生が考古学に出会って半世紀近く経ちますが、特に心震えた瞬間を挙げるとすると?

発掘の現場では、やはり墓を見つけた瞬間は興奮しますね。ほんのわずか

国の宝を掘る責任と、ワクワクと

な層の違いから「掘り込みがある」「これは墓の縁だ」と直感的に分かりますから。もちろんその裏付けとなる蓄積があつてこそですが。マヤ文明の王宮クラスの人たちが生贊にされた墓が見つかった際も、16時間連続で掘つたりと、まさに寝食を忘れるほど夢中になつてしましました。

岡本 先生は単位の研究でも大変な成果を上げられましたね。

杉山 25km²の都市全体が「83cm」を単位に設計されていることを突き止めました。この単位をT MU(Teotihuacan Measurement Unit)と名付け、様々なモニメントに当てはめていくと……例え

ば、「太陽のピラミッド」のサイズは、259・3 T MUで、宗教暦の1年(260日)とほぼ一致。さらに「月のピラミッド」の107 T MUと合計すると367 T MUとなり、太陽暦(365日)とほぼ一致。他にも様々な数値の一致

が見られ、「都市の建築群が天体の動きと暦の大周期を反映している」ことが明らかになつたのです。何気なくT MUを当てはめてこの法則を発見した時は「本当にこんなことがあるのだろうか」と、いかになつたのです。何気なくT MUを

考えられない。その意識が自分の中に埋め込まれていたのは確かです。ただ、それが何を表すのかを解き明かすのに30年もかかりました。発掘というのは、掘れば掘るほど謎が深まるのです。

岡本 先生は、やはり表情がイキイキしていますね。外国人への警戒心が強いとされるメキシコ人に信頼されるのも分かる気がします。学問における貢献はもちろん、先生は意見の対立する学者とも気さくにテキーラを酌み交わしたり、現地の作業員とも分け隔てなく付き合つたりしているそうです。型通りのエリートコースを歩んだ学者にはない自由奔放さというか、人を引きつける魅力がありますよね。

青春を彷徨う日々 若いうちに外に出よ

岡本 大学時代の杉山先生は、放浪の旅に出てヒッピーのような生活を送つていたとか。「青春を彷徨う」ともいってべき時間・経験がなければ、いまの杉山三郎はないのでしょうか。

杉山 ありがとうございます(笑)。メキシコ人にとって歴史学・人類学という学問は、スペイン人に作り替えられた自らの歴史を暴くことでもあるわけで、そこには複雑な思いもあるでしょう。研究の現場においても、自国の文化は自分たちが守るという意識が強い。そんな中、外へ出るという意識があるわけでも、そこ

にわかには信じられませんでした。古代人の天文学的知識の深さとコスミックシティの壮大さに、改めて感銘を受けました。**岡本** 図面上での発見とはいえ、これには、主要な建造物を実際に測量した先生の豊富な現場経験も生かされたのでは。

杉山 そうですね。東西南北の軸が何km離れても一度以上の狂いがないこの古代都市は、天体を使って作られたとしか考えられない。その意識が自分の中に埋め込まれていたのは確かです。ただ、それが何を表すのかを解き明かすのに30年もかかりました。発掘というのは、掘れば掘るほど謎が深まるのです。

岡本 素晴らしいですね! 大変な業績を上げたごく一部の学者にしか認められないことですから。そこに日本人が、しかも東経大の卒業生が選ばれるとは、非常に光栄に思います。

岡本 素晴らしいですね! 大変な業績を上げたごく一部の学者にしか認められないことですから。そこに日本人が、しかも東経大の卒業生が選ばれるとは、非常に光栄に思います。

岡本 やりたいことが分からないと悩む若い世代にエールをお願いします。

杉山 手っ取り早いのは、外に出ることです。ある意味「生ぬるい」日本の生活に慣れていると、言葉もろくに通じないうえにお腹を壊すかもしれない海外に行くのは億劫かもしれません。でも、自分の体験に勝るものはありません。安全面には十分注意を払いつつ、時には、ガイドブックや翻訳ツール、パックツアーやりたいことが分からず、マルクス経済学にかぶれたり、夏目漱石に傾倒したり

よいのでは。自分の心に素直に従つて、まず行動してみる。そうすれば、自分の進みたい道もきっと見つかると思いますよ。

岡本 何となく大学には入つたもののやりたいことが分からず、マルクス経済学にかぶれたり、夏目漱石に傾倒したり

よと、もがいていました。その後、海外に出よう決意し休学。家庭教師から土木作業員まであらゆる仕事をしてお金を貯め、横浜港からシベリアへ。欧州、中近東、中央アジアと巡り、半年間で21カ国を放浪しました。なかでも、トルコや伊朗、アフガニスタンなどのイスラム圏での強烈な異文化体験、そして、インドで目



の当たりにした格差社会の有り様は忘れられません。未知の「生きた異文化」「文化の空間的広がり」を頭の柔らかい若い時分にブワーッと体験したわけです。帰国後は、友人に誘われて参加した古墳調査を機に考古学の道へ。「時間的広がり」と向き合う面白さに目覚めつづ、強烈な異文化体験の影響もあり、新大陸の考古学に関心を持つようになりました。まさにこの旅が、いまの自分を作る原点となりましたね。

岡本 やりたいことが分からないと悩む若い世代にエールをお願いします。

杉山 手っ取り早いのは、外に出ることです。ある意味「生ぬるい」日本の生活に慣れていると、言葉もろくに通じないうえにお腹を壊すかもしれない海外に行くのは億劫かもしれません。でも、自分の体験に勝るものはありません。でも、安全面には十分注意を払いつつ、時には、ガイドブックや翻訳ツール、パックツアーやりたいことが分からず、マルクス経済学にかぶれたり、夏目漱石に傾倒したり

よいのでは。自分の心に素直に従つて、まず行動してみる。そうすれば、自分の進みたい道もきっと見つかると思

いますよ。

岡本 何となく大学には入つたもののやりたいことが分からず、マルクス経済学にかぶれたり、夏目漱石に傾倒したり

よと、もがいていました。その後、海外に出よう決意し休学。家庭教師から土木作業員まであらゆる仕事をしてお金を貯め、横浜港からシベリアへ。欧州、中近東、中央アジアと巡り、半年間で21カ国を放浪しました。なかでも、トルコや伊朗、アフガニスタンなどのイスラム圏での強烈な異文化体験、そして、インドで目

誌面講義

現在の日本列島を形作った変動

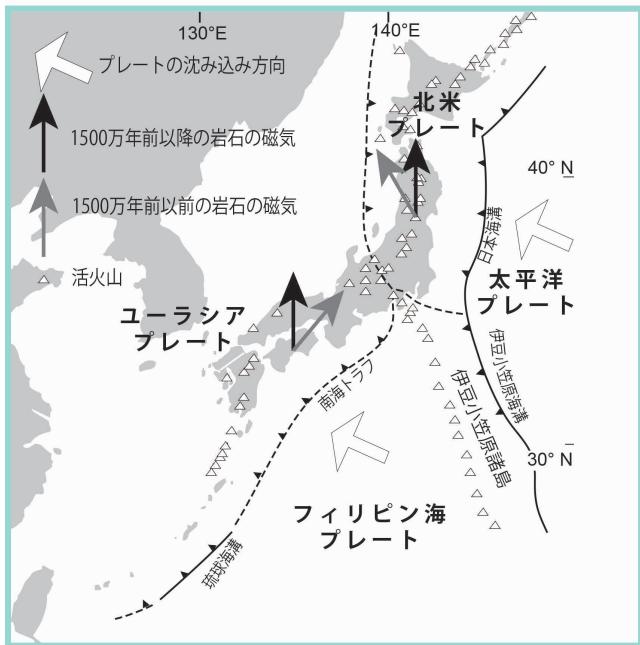
地質現象を研究することで
見えてくる日本列島の歴史と
現在への影響を解説。

今回教えてくれたのは
新正 裕尚教授
全学共通教育センター
研究分野：地質学、岩石学、
地球年代学



現在の日本列島が形成されたのはいつ？

現在の日本列島は西日本がユーラシアプレートに東日本が北米プレートに属し、おまかに言つて前者の下にフィリピン海プレート、後者の下に太平洋プレートという海のプレートが沈み込んでいます（※図1）。これらの4つのプレートの運動が現在の日本列島周辺のさまざまな現象と関わっています。たとえば、2011年の東北地方太平洋沖地震は太平洋プレートと北米プレートの境界で発生したものであり、いわゆる南海トラフ地震はユーラシアプレートとフィリピン海プレートの境界で繰り返し発生している地震の総



※図1 日本周辺の4つのプレート

称です。では、このようなプレートのおおよその配置はいつ形作られたものでしょうか。現在の日本列島の地質体は東アジアの大陸東縁で5億年以上かけて形成されました。それが中新世と呼ばれる時代の約1500万年前ごろの変動で日本海が形成され、大陸から分離してほぼ現位置に移動してきました。したがってこの中新世の変動が現在の日本列島の形を作ったものと見て良いと思われます。

西南日本の回転時期のさまざまな説

1980年代の研究で、西南日本は時計回りに、東北日本は反時計回りに回転をして大陸から離れたことが主張されました。これは主に古地磁気学の研究から出てきた説です。古地磁気学は岩石ができる当時の地磁気の記録を、残留磁気と呼ばれる岩石が覚えている微弱な磁気から読み取り、昔の地磁気や岩石の位置情報を研究する分野です。1500万年前ごろ以前の岩石は西南日本ではなく、東北日本では西に偏った残留



磁気を持ち、1500万年前より後の岩石は現在に近い北向きの磁気を記録していることからこの回転時期が推定されました。その後日本海の海底の掘削調査などを通じて、日本海の形成の開始はもう少し早く2500万年前ごろに遡り(※図2)、列島の移動様式についてもさまざまな説が議論されました。しかし、西南日本の時計回り回転 자체はその後の研究でも揺るがず、最近の研究では回転時期は1800万年から1600万年前の間ごろと以前より少し古い時期に推定されています。

回転後に西南日本で大規模に起きたマグマ活動



※図2 回転前の日本列島(2500万年前ごろ)
当時の岩石は北向きの残留磁気を記録したが
回転でその方向が変化した

1600万年前に回転してきた西南日本の下にフィリピン海プレートが沈み込むようになりました。西南日本に沈み込んだ部分のフィリピン海プレートは四国海盆と呼ばれる、できてあまり時間が経っていない通常よりも高温のものと推定され、これが西南日本の地質現象にさまざまな影響を与えています。たとえば近畿、中国地方にあまり活火山がないことも深い関わりがあります。その高温の海のプレートが沈み始めた直後には、今は火山など一切ない西南日本の太平洋寄りの地域で大規模な火山活動が起こりました。

たとえばサヌカイト(石琴などに用いるいわゆるカンカン石)という岩石をご存知でしょうか。これは瀬戸内地域に分布する当時の火山に見られた。1891年に命名しました。サヌカイトのマグマを作った火山帯は瀬戸内地域だけではなく、最近のわれわれの研究で西は九州の天草諸島まで分布することがわかつてきました。また瀬戸内地域よりさらに太平洋に近い場所では、高温のプレートの沈み込みに関連して比較的浅い場所で花こう岩(いわゆる御影石)質のマグマが大量に作り出されました。たとえば紀伊半島で起きた複数の巨大カルデラ噴火は大量的の火

たとえばサヌカイト(石琴などに用いるいわゆるカンカン石)という岩石をご存知でしょうか。これは瀬戸内地域に分布する当時の火山に見られた。1891年に命名しました。サヌカイトのマグマを作った火山帯は瀬戸内地域だけではなく、最近のわれわれの研究で西は九州の天草諸島まで分布することがわかつてきました。また瀬戸内地域よりさらに太平洋に近い場所では、高温のプレートの沈み込みに関連して比較的浅い場所で花こう岩(いわゆる御影石)質のマグマが大量に作り出されました。たとえば紀伊半島で起きた複数の巨大カルデラ噴火は大量的の火

碎流を放出しその火山灰は東方に広がって房総半島でも場所によっては厚さ10メートルを超えて降り積もっています。また、世界自然遺産の屋久島は最高峰の宮之浦岳を含む島の大半がこの時期のマグマが冷え固まつた花こう岩からできています。われわれはこのような巨大なマグマ活動の時間空間分布について研究を進めてきた結果、紀伊半島から九州にかけて1450万年前ごろを中心に前後200万年の間に起こったことを明らかにしました。西南日本が回転して高温のフィリピン海プレートに乗り上げた直後からしばらくの間続いた火成活動であることがより明確になってきました。

このような「大昔」に終わってしまった地質現象を研究することの意義はなんでしょうか。もちろん列島の地史を明らかにするためには、個々の地質現象についてさまざまな手法によるデータを集積し議論することは欠かすことができません。それだけではなく、過去の地質現象が現在の変動としばしば繋がりがあることもボーダーです。たとえば上で述べた巨大カルデラ噴火を起こした紀伊半島の地下には火山と地下で繋がる南北に延びる巨大な火成岩体が伏在していることが最近わかつてきました。海溝に近いところにこのような巨大で固い岩体があると沈み込む海のプレートの形状に影響を与え、ひいてはこの付近で起こる南海トラフ地震にも影響を与えます。たとえば、1944年の東南海地震はこの巨大岩体の東翼で、1946年の南海地震は西翼で発生しています。このよう

おわりに

うな伏在岩体の成因を議論するためには、対応する地表の岩体に基づく火成活動の研究が欠かせません。すなわちこのような地質研究はほぼ純粋に理学的な動機で行われているものですが、そこで得られた知見(の少なくとも一部)は現在社会的に取り組まなければならない問題に通じる可能性を持つことになります。

学修支援

コトパティオ学生スタッフ

東経大生による東経大生の英語サポート

「コトパティオは楽しそうで、みんなと交流したいけど、英語ができない私には参加できない」と思っている学生のために、コトパティオの学生スタッフは日本語をしながら英語のゲームやアクティビティをサポートします。学生スタッフは留学経験があり、月に1回程度コトパティオでその経験について発表しているので、英語学習や異文化理解を深めることができます。



気軽に参加
できるのが魅力



国際交流・多文化 共修チューター(学習)

留学生を学習面で支援します

学習チューターは、日本で初めて大学生活を送る留学生に対し、学習面でサポートを行う制度です。日本人学生とペアを組み、マンツーマンで留学生が間違えやすい文法の修正やレポートの添削、授業での悩みなどについて助言します。チューター活動を通じて学内でも国際交流ができ、異文化への理解を深めることができます。

地域貢献

こくスマ!(まちづくり学生団体)

「ぶんじコンシェルジュ」活動のなかで伝わるもの

大学公式まちづくり学生団体「こくスマ!」は、「国分寺のスマイルをつくる」をコンセプトに掲げ活動を行っています。活動の柱のひとつが「ぶんじコンシェルジュ」。研修を受け「ぶんじコンシェルジュ」の資格認定をされた100名ほどの学生たちが交代で、国分寺駅コンコース内の国分寺市案内所などで国分寺の観光案内、まちの魅力発信、イベント等の情報提供を行っています。先輩と後輩が一緒に活動を行うなかで伝わるものは、おもてなしのマナーや知識だけではない「まちへの思い」なのかもしれません。



国分寺市案内所
Kokubunji City Information Center



ぜひ一度
お立ち寄りください!

東京経済大学の ピア・サポート

本学では学生が学生の困りごとを支援する「ピア・サポート」活動が学内の様々な場所で行われています。

今回は5つの団体が、それぞれの活動の詳細について紹介します。

学生交流

- 学生交流サポーター
- 新入生歓迎企画
- 入試課学生スタッフ
- オープンキャンパススタッフ
- 地域別学生交流会
- CDPディキャンプ
- 國際交流・多文化共修チューター(交流)

学修支援

- 学習サポートデスク(図書館)
- 学習センター学生サポーター
- 学習センター大学院生サポーター
- 障がい学生サポート
- 院生会
- CDP履修相談会
- 授業サポート
ファシリテーター(CDP)
- コトバティオ学生スタッフ
- 國際交流・多文化共修チューター(学習)

キャリア支援

- 内定者相談会
- 就職相談会
(葵流通会・葵金融会)

地域貢献

- こくスマ!(まちづくり学生団体)
- SDGs学生委員会

学生交流

学生交流サポーター

満足度は99%!

新入生の学生生活をサポートします!

“学生交流サポーター”は、新入生が大学生活のスタートダッシュを切れるよう、研修を経て様々な支援企画を実施しています。サポーターの学生は、新入生の緊張をほぐす工夫を凝らし、学生生活に関する質問にも応じます。新入生 Welcome Partyの参加者アンケートでは満足度99%! 学生自身も成長を実感できる場となっています。

現在は3月に予定している新入生 Welcome Partyに向けて、50名以上の学生が協力して準備を進めています。



ショート動画はこちら! ▲

▼パーティーの様子をお届けします!



キャリア支援

内定者相談会

内定者のコトバをチカラに

2024年度は商社・金融・鉄道の各業界を代表する企業から内定を得た学生が参加する相談会を開催しました。参加した内定者は、各業界で求められる人材や就活の進め方について後輩へアドバイスとともに、就活や学生生活についての質問に丁寧に答えていました。参加した学生からは、就活の進め方が分からず不安を感じていたが、アドバイスいただいたことを早速実践したいと前向きな発言が聞かれました。内定者相談会は毎年実施しており、様々な機会を通じて、就活の知識・経験が後輩へ受け継がれています。



▲内定者による講演の様子

個別相談の様子 ▶



新カリキュラムについて

入試・教学等担当副学長 **近藤 浩之**

新カリキュラム導入の背景

本学では第2次中期計画（2021年度～2025年度）の分野別計画（教育）を策定するにあたり、文部科学省が制定した新しい高等学校学習指導要領を意識した上で、本学の個性や本学がもつ教育資源について改めて確認しました。そしてそれを踏まえて、「ゼミを主軸とする少人数教育の拡充」「学部横断型データサイエンス教育の導入」「英語運用能力と多文化共生力の育成」の3つを教學改革の柱と定めました。新学習指導要領に沿った学びを経た学生が2025年度から入学していくことから、それに合わせて、経済、経営、現代法の3学部では、総合教育科目を管轄する全学共通教育センターとも連繋して、

ゼミ改革の推進



新高等学校学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びを通じて探究を深める力の育成が何よりも重視されています。そしてそうした時代の流れを先取りする形で、本学は「ゼミする東経大」を標榜するなどゼミを特に重視してきました。こうし

データサイエンス教育の推進

本学は現行カリキュラムにおいてもデータサイエンス教育の実施体制を整えていますが、今回の新カリキュラムでは、入門段階からの体系を整備するよう準備を進めるとともに、導入後は学修成果を把握するよう努め、カリキュラムのさらなる改善へと繋げていきます。

得できるよう、全学共通の総合教育科目として「教養としてのデータサイエンス」を新設します。また、その先の段階に関しては、各学部においてデータサイエンス科目を拡充するとともに、各学部が自前で用意することが困難な科目については相互に他学部履修を認める形で対応することになりました。

多文化共生力の強化

今回のカリキュラム改革では、総合教育科目の「教養講義科目」枠の中に「多文化共生」枠を設け、これまで散在していた多文化共生に関わる科目を当該枠の中にまとめて配置します。これにより、本学が多文化共生力の強化を強く意識していることを明確に伝えます。



東京経済大学へのご寄付について

東京経済大学へのご寄付につきましては、卒業生、ご父母をはじめ大学内外の多くの皆様からご支援ご協力をいただいております。皆様のご厚情に深く感謝申し上げます。

今回は前号掲載以降から、九月末日までにご寄付をいただきました皆様のご芳名をご紹介させていただきます。
なお、ご本人様のご了解をいただいた方のご芳名を掲載させていただいております。
引き続き「『進一層』募金」へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

二〇二五年一月

学校法人 東京経済大学 理事長 菅原 寛貴
東京経済大学 学長 岡本 英男

学生支援奨学募金
大学奨学基金寄付金

東経の森・水と緑の募金

研究奨励募金
研究奨励基金寄付金

キャンパス整備募金

アドバンストプログラム
推進基金寄付金

国際交流奨学基金寄付金

ゼミナール等支援募金

修学支援特別奨学寄付金

スポーツ振興基金寄付金

寄付者ご芳名

※個人情報保護のためWEB掲載を控えさせていただきます。

スポーツ・文化振興募金

◎体育会
端艇部

陸上競技部

硬式野球部

スキーパー

シングルスカル艇
二艇購入負担金として

アメリカンフットボール部

ワンドーフォーゲル部

バスケットボール部

硬式庭球部

剣道部

大倉学芸振興会への寄付

その他の寄付

PMA

◎文化会
演劇研究会

軟式野球部

ラグビー部

サッカー部

ソフトテニス部

バドミントン部

弓道部

合気道部

スキーパー

経済学部

教育振興資金

コミュニケーション学部

経営学部

大学院

キャリアデザインプログラム

現代法学部

本学が募集している各基金の詳細については、
東京経済大学公式サイトをご覧ください。

<https://www.tku.ac.jp/tku/kifu/shogaku.html>



 東京経済大学へのご寄付をお考えの方は
こちらからお願ひいたします。

<https://fundexapp.jp/tku/entry.php>

各部・サークルへの
ご寄付をお考えの方

インターネットからのクレジット決済によるご寄付をお考えの方は、上記二次元コードより本学寄付金公式サイトの寄付目的「スポーツ・文化振興募金」を選択いただき、下段の支援先欄からご希望の部・サークル名を選択のうえ、寄付方法・寄付金額を選択してください(任意金額の入力可)。

振り込みによる
ご寄付をお考えの方

ゆうちょ銀行(郵便局)からお振り込みをご希望の方は、校友センター募金室までご連絡ください。専用振込用紙をお送りいたします。
ゆうちょ銀行(郵便局)、銀行から直接お振り込みをされる方は、以下の口座番号までお願ひいたします。

ゆうちょ銀行 口座番号 00180-2-263663
加入者名 学校法人東京経済大学寄付金口

三菱UFJ銀行

支店名 国分寺支店 口座番号 (普)0283543
口座名義 学校法人東京経済大学寄付金口

寄付金に関するお問い合わせはこちらまでお願ひいたします。

総合企画部校友センター募金室 TEL 042-328-6100 MAIL bokin@s.tku.ac.jp

「スポーツ・文化振興募金」におけるサイクリング愛好会への寄付の活用についてご紹介

サイクリング愛好会 顧問 羅 鈴鎮（経済学部教授） 代表 倉持 青空（経営学部3年）

サイクリング愛好会では皆様からいただいたご寄付を、2024年6月に開催された大会「9極の耐9in筑波サーフィット」の参加費へ活用させていただきました。

この大会は最大6人でチームを組み、9時間ローテーションをしながら筑波サーフィットを走り続けます。今回は実業団などの強豪含め53チームがひしめく中、我々6人のチーム「ASARUM」は21位の成績を収めることができました。

現在、サイクリング愛好会は10人の新入生を加え、約30人の部員が在籍しています。月2回の活動に加え、夏に

北海道と大島で、春に土浦で年3回合宿を行っています。大島合宿は新入生も参加し、交流を深めサイクリングに一層興味を抱いてもらうきっかけを作ることができたと感じています。夏に九州の最南端から北海道合宿に合流した部員3名は、日本縦断を達成しました。

2024年は上記大会への出場や日本縦断達成といった挑戦の年となりました。ここを到達点として止まることなく、今後も仲間とともにペダルを回し進み続けたいと思います。最後になりますが、活動の様子は各種SNSへ随時投稿しております。今後とも応援のほどよろしくお願い申し上げます。



経済学部の石川雅也ゼミが日銀グランプリで最優秀賞と敢闘賞をダブル受賞！

2024年11月23日(土)、日本銀行本店で「第20回日銀グランプリ～キャンバスからの提言～」の決勝大会が開催され、経済学部・石川雅也准教授ゼミの学生から2チームが出場し、最優秀賞と敢闘賞をそれぞれに受賞しました。

「日銀グランプリ」は、日本銀行が主催する学生向けコンテストです。学生が金融・経済に関心を持ち、日本の金融・経済の現状と将来について、自分たちの問題として考えてもらおうきっかけとして、2005年度より開催されているもので、今大会の応募総数は全国の大学から139編。書類審査を通過した5チームが、日本銀行でプレゼンテーション及び審査員との質疑応答を行い、各賞が選定されました。

石川准教授ゼミとしては、2年ぶりの決勝大会進出で、最優秀賞の受賞は通算4回目となります。石川准教授は「決勝大会前の準備において、様々な先生がご助言、激励くださったおかげもあり、決勝大会では2チームとも堂々たるプレゼンテーションと質疑応答を見せてくださいました。2チームのメンバーはもちろん、それ以外のゼミ生たちも含めて、真剣に取り組んだからこそその成果であり、ぜひ全員が胸を張ってほしいと思っています」とコメントしました。



【最優秀賞】池野壮哉(経済3年)、安西正貴(経済4年)、松岡大河(経営3年)、船間暖生(経済2年)

『Future Can Change～家計の排出量取引参入スキーム「FCC」による脱炭素行動の強化～』



【敢闘賞】長田出帆(経済4年)、安達一護(経済4年)、小沢颶鷹(経済4年)、住谷颶太(経済4年)

『価格転嫁促進のための提案～マッチングフォームKAKAKUTENKAの覇道～』

葵マスコミ会総会・懇談会を開催 卒業生が就活を応援

広告や広報、放送、印刷、メディアなどマスコミ業界で活躍する卒業生が組織する葵マスコミ会の総会・懇談会が2024年10月18日(金)、アルカディア市ヶ谷で開催されました。

第一部は、卒業生で株式会社日本経済社に勤める大北大氏と株式会社エイレックスの高橋理子氏、X Corp.(旧Twitter) Japan株式会社の中村一志氏による業界クロストーク。学生からの事前質問をテーマに業界ごとの解説がなされ、参加した学生は熱心にメモを取りながら聞き入っていました。第二部では、学生が卒業生に直接質問ができる立食形式の懇談会が行われ、多くの学生が自分の興味のある業界で活躍する卒業生に積極的に質問や名刺交換をする姿が見られました。



「大学生観光まちづくりコンテスト」で青木亮ゼミの学生が準グランプリを受賞！

経営学部・青木亮教授ゼミの学生が、「大学生観光まちづくりコンテスト2024」で準グランプリを受賞しました。「大学生まちづくりコンテスト」は、全国の大学生を対象に、観光まちづくりを通じた地域活性化プランを競うコンテスト。2024年度は「福島復興ステージ」をテーマとして、福島県におけるコンテスト選定市町村の各地域の観光資源の掘り起しと地域ビジネス創出のための観光まちづくりプランの提案が競われました。

準グランプリを受賞した青木ゼミのチームのプラン名は「とみおかスポーツディスカバリー」。福島県富岡町の関係・交流人口の増加を目指す一般的な観光に加えて、震災の影響で薄れてしまった福島県に住む子どもたちの外遊び文化の「復興」を行うことで、さらに富岡町に活気を呼び込もうと企画しました。チームリーダーを務めた高橋睦さん(経済4年)は、「3年間このコンテストに挑戦し続け、今回初めての受賞なので、表彰の瞬間は本当に舞い上がるような気持ちでした。プランの作成段階では、受賞どころか企画がまとまらないのかすら危うかったため、最後まで作り上げることができたのは仲間のお陰だと思っています。今回に限ったことではありませんが、私がコンテストを通して最も学んだことは、実際に現地に訪れて自分自身の目や耳でその場所のことを知ろうとすることの大切さです。取材を重ねると、住んでいる人にしかわからない町の課題やネットでは見つからない魅力が沢山見つかります。私たちの企画も、そういった現地の方とのさりげない会話から生まれました。

現地取材に行っていなかったら、恐らく表彰の場に私たちはいなかつたと思います。今回、このチームで準グランプリをとれたことは本当に嬉しいですし、誇りに思います」と感想を寄せました。

【準グランプリ】青木らば3
高橋睦(経済4年)、相原優(経営4年)、雨宮和音(経営4年)

全国法学部経済法研究フォーラムに本学から4チームが参加

2024年10月19日(土)、第1回全国法学部経済法研究フォーラムが成蹊大学にて開催されました。フォーラムでは全国から広く、学部生による独占禁止法や景品表示法など、経済法に関する論点を取り扱うポスター発表を募集し、これとあわせて、第一線で経済法に関わる弁護士、企業法務関係者、公取委職員、研究者といった講師の方々を招きセミナーが実施されました。

本学は現代法学部・中里浩教授のゼミから4チームが、審査を通過し参加しました。普段からゼミを通じて学習している問題を身近なテーマとして設定し、単に文献調査に基づくだけでなく、書店や業界団体関係者へのインタビュー、消費者やアルバイト店員に対するアンケート調査、実際のWeb広告のチェックを行うなど、すべての発表でフィールドワークを取り入れたことが他の大学がない、大きな特徴となりました。



卒業生と就活生を繋ぐ 葵流通会 総会・懇親会を開催

百貨店やスーパー、寝具製造卸、食品卸、物流、食品製造販売など流通業界で活躍する卒業生が組織する「葵流通会」総会・懇親会が2024年11月7日(木)、アルカディア市ヶ谷で開催されました。

第一部では、株式会社Olympicグループ代表取締役社長の大下内徹氏が、流通業界の今後の展開について、業界の歴史や自身の経験に基づき講演を行いました。第二部では、前半で食事をしながら懇談、後半には学生と卒業生による相談会が行われました。学生たちは興味のある業界や、普段あまり知らない業界について積極的に質問を投げかけていました。最後に、グリークラブ有志8名と卒業生、在学生が校歌を齊唱し、葵流通会の総会・懇親会は盛況のうちに幕を閉じました。



初の国分寺キャンパス開催 2024年度葵金融会総会・懇談会

金融業界で活躍する卒業生が組織する「葵金融会」は2024年11月30日(土)、本学食堂にて総会・懇談会を開催しました。初の学内開催となり、多くの卒業生や在学生が参加しました。

当日は卒業生会員による総会が開かれた後、84名の在学生が合流し、パネルディスカッションが行われました。パネルディスカッションでは銀行や証券会社にお勤めの若手卒業生3名と、銀行から内定をいただいた経営学部4年生1名が登壇し、一日の業務の流れについて紹介した他、大学時代にやっておいた方が良いこと、就職して実感する東経大の良さなどを話しました。登壇した卒業生のひとりは「就職活動の際はOB・OGを訪ね、社風や業界を知るなど対策を講じて、自分が入りたいと思う企業に挑んでほしい」と思いを語りました。

その後行われた懇談会では卒業生と在学生が会話を楽しむながら、積極的に質問や名刺交換をする様子が見られました。参加した在学生は「卒業生から様々な情報を得られ、就職活動の参考になった」「以前から金融業界に興味があったので、今回の懇談会に参加することで、これまで以上にモチベーションが上がった」と感想を寄せました。

岡本英男学長は「例年アルカディア市ヶ谷で開催していたが、今回初めて本学での開催となった。結果的により多くの在学生が参加し、卒業生も久々の母校訪問ということもあり



学生との距離が縮まっているように見えた。学内で行うことで、学生は緊張せず卒業生に質問することができたように見えたので、本学で開催できてよかったと思う」と挨拶しました。

令和6年公認会計士試験に5名が合格!

令和6年公認会計士試験の合格発表が2024年11月15日(金)に行われ、本学から2名の学生と3名の卒業生が合格しました(2024年11月18日現在)。学生は経済学部または経営学部に所属する3年生2名で、会計専門職を目指す学生を全面的に支援する「会計プロフェッショナルプログラム」に所属しています。公認会計士・監査審査会によると、今回の公認会計士論文式試験受験者は4,354人で合格者は1,603人でした(最終合格率7.4%)。

会計系の専門職試験において大きな成果をあげている「会計プロフェッショナルプログラム」は本学のアドバンストプログラムの一つで、公認会計士や税理士などの在学中合格を目指し、専門学校の講座受講料を大学が負担するなど大学の正課授業と連携して難関資格突破を目指す学生を支援するものです。

本学卒業生で写真家・エッセイストのハービー・山口氏(1973年卒)が表紙写真を担当!大学の今を皆様にお届けします。

撮影後記

ハービー・山口氏より

本号の表紙撮影のモデルとなっていた東経大の学生は、「ピア・サポート」活動のひとつとして学生同士の交流イベントを企画している4人です。学生たちが立っている場所は5号館の屋上です。秋の日差しが雲間から差し込み、背景に広がる武蔵野の街並みが綺麗でした。高台にキャンパスがあるからこそ得られた風景でした。この校舎は私が現役の頃にはありませんでしたから、「ピア・サポート」もこの風景も、私には新しい発見でした。4人の学生はイベントを企画するだけあって好奇心に満ちていて、楽しみながらモデルを務めてくださいました。



地域と共に歩む新たな一步 「東経大スポーツフェス」を開催

2024年11月10日(日)、本学武蔵村山キャンパスで「東経大スポーツフェス」を開催しました。本フェスは様々なスポーツを体験できるイベントとして、本学体育会出身の卒業生を中心となって企画したものです。初開催となった今回は600名を超える方々に来場いただき、地域の子供たちやそのご家族、地元住民の皆様でございました。体育会各部が、テニス、野球、ボート、陸上競技など12種目の会場に分かれ、それぞれの種目ブースでは、多彩なスポーツ体験やデモンストレーションが行われました。

参加者からは「1日でこんなにたくさんのスポーツ体験ができる企画は素晴らしい」「来年も必ず来ます」「楽しかった」などの声が多数寄せられました。指導にあたった学生たちの熱心なサポートや、卒業生たちの経験に基づいたアドバイスもあり、ご参加いただいた皆様にスポーツの楽しさを体感していただくとともに、周囲を包む温かな雰囲気の中で終始笑顔に包まれた一日となりました。



キャリアデザインフォーラム2024「ピアサポート活動を通じて学生はどう成長するか?」を開催

2024年10月30日(水)、本学のキャリアデザインプログラムは、「キャリアデザインフォーラム2024 ~ピアサポート活動を通じて学生はどう成長するか?~」を、一進層館(フォワードホール)で開催しました。本フォーラムでは、2017年度に開設したキャリアデザインプログラムが実施しているピアサポート活動の「ピアサポート自身の成長」に注目。サポート側の視点で見た際の成長の基点やプロセスのほか、ピアサポート活動のあり方について考えを深めるための教員報告や学生発表、特別講演、パネルディスカッションを実施しました。

学生発表では、6期生の学生3名が自身のピアサポート活動を通しての成長について語り、目的志向を手に入れて納得感と自信をもって行動に移すことができるようになったことを発表しました。

特別講演では、京都産業大学共通教育推進機構の松尾智晶准教授が「京都産業大学におけるピアサポート活動の実践例について」と題して、京都産業大学の多様なピアサポート活動の中から、学生ファシリテーターとF工房(ファシリテーション工房)で学生の主体性が発揮されている実例を講演いただきました。

最後に、松尾准教授と北山聰准教授、田村寿浩特命講師、6期生の学生3名がパネルディスカッションを行い、教員視点でなく学生視点でピアサポート活動を行う際に感じるギャップや、ピアサポート活動の今後の展望などについて議論しました。

